

VOICES 集 幅広い対応が可能に。よりパワーアップした 内科・循環器内科

現在、当院の内科診療は、入院加療を総合診療内科、循環器内科および消化器内科の3科にて、そして外来にて呼吸器内科、代謝内分分泌内科および肝臓内科を診療しています。そのような中、昨秋、内科系統括部長に瓦林孝彦副院長が就任され、循環器内科のスペシャリストである瓦林副院長の下、狭心症や心筋梗塞、心不全など、心臓血管を中心とした循環器内科の充実が図られています。瓦林副院長と大谷眞一郎内科部長・循環器内科部長に現在の内科についてお話をうかがいました。

まず、現在の内科について教えてください。

瓦林副院長(以下瓦林) 入院機能として以前は循環器内科が内科全般の診療も担っていました。最近内科の医師が増員できたことで、神経、消化器、循環器などの診療は専門診療科の医師が担当することとなりました。ただ、当院の専門科以外の内科疾患や「調子が悪いが、どの科に

かかったら良いのかわからない」といった場合に的確な治療を行えるように鑑別診断を行う総合診療内科を新しく創設しました。専門内科医とも協力して内科全般の診療をカバーできるようにしました。外来機能も内科外来枠そのものを大きく増やすことで、患者様へのサービス向上と待ち時間削減に取り組んでいます。

どのようなところがより充実しましたか？

瓦林 現在、内科全般の充実を図っていますが、その中で、今まで大谷内科部長が長年奮闘されていた循環器内科に専門医を増員し、チームとして幅広く対応できるようにしました。大谷内科部長(以下大谷) 今までも24時間365日救急の患者様にも対応していましたが、循環器系のスペシャリストが増え、特に緊急に対して、より充実した対応ができるようになりました。また、チームで動くことに

より、客観的で幅広く、そして新しい試みも行えるようになっていきます。

スタッフ体制は？

瓦林 現在内科には16名の内科医が在籍しています。その中で循環器内科の専門医として新たに4名が赴任し、私や大谷部長を含め合計6名となりました。そのため、循環器専門外来の充実と緊急の心臓カテーテル検査および治療が、よりスムーズに行えるようになりました。

施設・検査機器等ハード面は？

大谷 冠動脈の状態を調べる「最新64列マル

チスライスCT」をはじめ、血管の形やその先の心筋細胞の状態を調べ、心臓の機能を確認する「心筋シンチ」、心臓の壁の動きや弁の動きを見て、異常がないかどうかを確認する「心エコー」(心臓超音波検査)など最新の機器を揃えています。



循環器科専用のカテーテル室

瓦林 さらに循環器科専用のカテーテル室が設置されています。虚血性心疾患は、時間との戦いです。これは、心筋梗塞などの緊急治療を要する場合にカテーテル検査や治療がとてもスムーズに開始できる大きなメリットがあります。



最新64列マルチスライスCT
高スピードで最大64枚を同時に撮影。患者様の負担も大幅に軽減した体にやさしい検査機器です。

これからの当院の内科のあり方や今後の方針について教えてください。

瓦林 団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり超高齢化・多死が問題となる「2025年問題」が目前です。このたびのスタッフ増員等により狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患に対して充実してきたと思ってい



SHINICHIRO OTANI



TAKAHIKO KAWARABAYASHI

内科の医師

- 特別顧問
三木 文雄
副院長・内科統括部長
瓦林 孝彦
総合診療内科
濱 典男、朴 将輝
循環器内科
大谷 眞一郎、松本 実佳、名方 剛、二木 克之、奥野 圭佑
消化器内科
浅井 哲、赤峰 瑛介、藤本 直己、田上 光治郎、一ノ名 巧、中尾 栄祐、橋本 斯慮恵

循環器内科スタッフ

ます。しかし、さらなる増加が予想される心不全、不整脈への対応の強化が急務だと考え、先ごろ(9月)より専門医を迎え、「心不全専門外来」を設置しました(次ページ参照)。より一層これからの超高齢社会に対応した診療を行ってまいります。大谷 1989(平成元)年に着任以来26年間、地域の皆様に安心して生活していただけるよう「地域の内科」として尽力してまいりました。スタッフも充実し、さらに信頼される内科を目指します。

